

シートメタル 九州

2010 秋号

第28号



-CONTENTS-

特集「九州のモノづくりの近未来」	… 2・3	鉄人倶楽部	… 7
工業会からのお知らせ	… 4・5	編集後記	… 8
マイブーム	… 6		

特集 「九州のモノづくりの近未来」

いわゆる『リーマン・ショック』以降、数年に渡り低迷してきた景気も、報道では回復基調にあるという。

しかしながら、九州の製造業においては、未だその実感は乏しいように感じる。

『九州のモノづくり』は、これから何を見据え、どこへ向かうのか…

今回の特集は、九州シートメタル工業会 企画推進委員・宮本が、この春から熊本県産業技術センターの所長に就任された坂井滋氏にお話を伺い、九州の製造業の未来を占つていただくことにした。

本当の『厳しさ』を直視できるか？

(宮本) まずは坂井所長の目から見た、現在の日本・九州のことをお聞かせください。

(坂井) 日本の製造業が新興国との競争になっているのは明白。今後はさらに海外に仕事を取られ、失業率も上がると思われます。

かつてオランダでは同様の状況になったときワークシェアを実施しましたが、公共的な仕事は皆半分ずつに分け合い、その代わりに賃金も半分にする、という手法を取りました。果たして日本でそこまで出来ますか？

経産省はまだ現実から目をそらし、希望的な予測、『夢』を公表しているように感じます。

日産に在籍中、(カルロス) ゴーンが来た頃『技術』を標榜していたが、ゴーンは「何故技術があるのに物が売れないのか？何故利益が出ないのか？」と言っていました。

曰く「日本・日産には（日本人が思う程）技術はない」と。「現実が直視されていない」ということです。

(宮本) 確かに、基礎技術の大半は『ソフト化』されて、海外に流出しています。

(坂井) まずここで大事なことは『真のニーズ』、つまり消費者から本音を引き出し、いかに大事なこと = 『本当に欲しい物は何か？』を見つけ、そこに的を絞ることなんです。それが『戦略』なわけです。『真のニーズ』は一つしかない。それをいかに見つけるかは、消費者・ユーザーの言葉をよく聴くしかないんです。

九州のモノづくりで感じるべき『意識』とは？

(宮本) これから、我々が製造業を続けていくに当り、どんな意識が必要と思われますか？

(坂井) やはり『次世代につながるモノづくり』ということを考えるべきではないでしょうか？

極論で言えば、今後数年は『工業の中国』『農業の日本』に帰結していくように感じます。

今、中国・インドなどの大量消費国に求められる『Made in Japan』は、すでに工業製品ではありません。何故なら、それぞれの国が『自国で作っている』からです。



例えば、デジカメにしろ、自動車にしろ、いずれは中国・インドにひっくり返されてしまいますよ。それは、かつて日本がアメリカをひっくり返した歴史と同じことです。

自動車の歴史に例えるならば、ヨーロッパ（イギリス）からアメリカへ、アメリカから日本へと動いたように、これが今からは日本から中国・インドへという流れになっていくはずです。『世界の工場』は移っていきますから。

21世紀は『水の時代』

(宮本) では、これから我々が着目すべき業種とは何でしょうか？

(坂井) 日本人がこれから何で食べていく（何を作る）べきか？

ここで先ほどの『真のニーズ』に応える、ということから導かれるることは、今、中国・インドの人々が欲する日本製品は何か？ということになります。

それは『安心・安全に口にできる食品と水』、ではないでしょうか？

幸いなことに、九州は中国が近いがゆえに『食品』（消費が増えている）『漢方薬の原料』『水』を輸出するのに有利な立地にあると言えます。

ここにチャンスがあると思われます。

工業が農産物の生産性の向上や、輸送技術・冷凍・保存技術に寄与出来ることはたくさんあるんですから。例を挙げるならば、魚は『活魚』とそうでない場合、中国や韓国では値段が1/10になってしまいます。つまり製造業が生き残る術は、『商・農（林・水）・工連携』“しか”ないと言つても過言ではないと思います。

まだ、この道“しか”ない、ということに、みんな気付いていないんではないでしょうか？

そして更なる幸運なことに、九州が世界に誇れる『宝』、これは『水』だと思われます。モノづくりの原材料として『石』『水』『気』『鉄』『木』が考えられますが、人間の身体はそのほとんどが『水』であり、農林水産の大元となるのは、他でもない『水』です。

『水』に付加価値を付け、持って行き、買ってもらうことに着目すればいいわけです。

熊本名産の『スイカ』。水のままなら500mlが100円で、スイカ500gで1000円としたら、付加価値は10倍ですよね。要は『どうやって付加価値を付けるか？』ということです。

20世紀は大量消費の『石油の時代』でしたが、21世紀は水『が』付加価値を生む、水『に』付加価値を付ける、『水の時代』と言つていいと思います。

それに加えて、工業だけでは人々は失業してしまいますが、農林水産を付加すると労働も生みますよ。木でいうならば、育てる人、それを『切る』人、『運ぶ』人、製品に『加工』する人、家を『建てる』人、という具合です。

ここで理想をいうならば、やはり『地産地消』ということでしょうが、それだけでは足りない。国内の賃金をまかなうためには、外貨に頼らざるを得ない部分もあります。

そこで、こうして国内で作った農産物を工業技術で加工（付加価値を付ける）して、海外に売るというサイクルを作りださねばならないのです。

『アジア』の九州として

(坂井) お役所は『今日のこと』はわかつても、『明日のこと』はわからない。明日のことを真剣に考えてるのは、グローバルな視点を持つ企業ですよ。

九州はすでに『アジアの一部』。『日本』の枠組にとらわれていては先がないんです。

製造業も、3D テレビはなくても生きていけるけれど食べ物がないと困る、という基本に立ち返って考へる時代が来ているということでしょうね。

熊本県産業技術センター

〒862-0901 熊本県熊本市東町 3-11-38
ホームページ：<http://www.kmt-iri.go.jp>

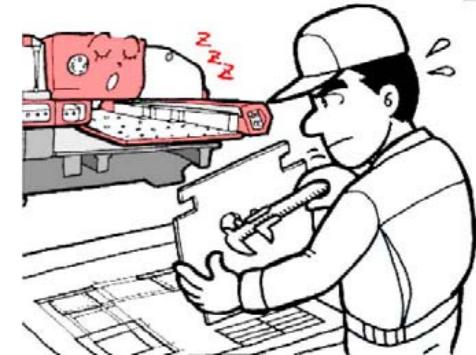
TEL：096-368-2101 FAX：096-369-1938
メールアドレス：www-admin@kmt-iri.go.jp



坂井 滋氏 略歴

1967 年熊本県立熊本高校卒業、東京大学工学部、同大学院を経て 1973 年日産自動車(株)入社、
1999 年商品企画室室長就任、2005 年シニアエンジニア就任、2007 年熊本大学客員教授、
2008 年日産自動車(株)技術顧問、(財)くまもとテクノ産業財団顧問、熊本県産業技術顧問に就任、
2010 年 4 月より熊本県産業技術センター 所長に就任。

<記事担当：宮本 健司>
(有)ユーアイ技研



工業会からのお知らせ

“板金図面検定”合格おめでとうございます！

第4回目の『板金図面検定試験』が平成22年8月28日に実施されました。7月に検定前講習を行い、下記20名(1級・8名、2級・12名)の方が、難関を突破され見事に合格されました。

板金図面検定合格者名簿

1級合格者

NO.	合格年度	作業	氏名	会社名	資格取得番号
1	22年	板金図面	河波 昌邦	株式会社 三松	2010-1-0023
2	22年	板金図面	久保 誠一郎	株式会社 三松	2010-1-0024
3	22年	板金図面	信國 智充	株式会社 三松	2010-1-0025
4	22年	板金図面	吉岡 孝洋	株式会社 三松	2010-1-0026
5	22年	板金図面	柴田 麻利子	八祥産業 株式会社	2010-1-0027
6	22年	板金図面	吉田 和喜	株式会社 田名部製作所	2010-1-0028
7	22年	板金図面	小島 史裕	ナサ工業 株式会社	2010-1-0029
8	22年	板金図面	木塚 麻依	ナサ工業 株式会社	2010-1-0030

2級合格者

NO.	合格年度	作業	氏名	会社名	資格取得番号
1	22年	板金図面	西田 優作	株式会社 三松	2010-2-0033
2	22年	板金図面	三宮 大昇	株式会社 三松	2010-2-0034
3	22年	板金図面	植尾 友紀	株式会社 三松	2010-2-0035
4	22年	板金図面	新谷 隼人	株式会社 三松	2010-2-0036
5	22年	板金図面	中山 正大	株式会社 三松	2010-2-0037
6	22年	板金図面	田村 将則	株式会社 西日本電機器製作所	2010-2-0038
7	22年	板金図面	古賀 卓也	株式会社 ヤスナガ	2010-2-0039
8	22年	板金図面	下 河 純	株式会社 ヤスナガ	2010-2-0040
9	22年	板金図面	西田 英明	株式会社 鐘川製作所	2010-2-0041
10	22年	板金図面	宮川 英己	株式会社 三松	2010-2-0042
11	22年	板金図面	野田 智広	株式会社 西日本電機器製作所	2010-2-0043
12	22年	板金図面	藤 雄一朗	株式会社 三藤製作所	2010-2-0044

板金図面 《1級取得》



今回は、まず私が工業会の事前セミナーを受講し、その後社内勉強会の講師役をしたのですが、人に教えるというのはやはり大変でした。しかし資料のまとめや練習問題の作成をしながら、知らず知らずのうちに自分の理解も深まっていました。自分の合格よりも社内受験者の結果が良かったことにほっとしています。今後はこの資格に恥じないよう、日常業務に取り組んでいきたいと思います。

(株)三松 河波 昌邦

板金図面 《2級取得》



今回の受験がきっかけで今まで判っていた知識を再確認し、知らなかつた知識を習得することが出来ました。学科では図面の見方や材料の性質を学べた事、実技では今まで使った事のない展開寸法の出し方を学べたことが印象に残っています。今回の受験で幅広く身に付けた知識を仕事に役立てていきたいと思っています。

(株)西日本電機器製作所 田村 将則

初開催！パワーアップ研修会 成果発表会

例年実施されているパワーアップ研修会は当工業会の研修の中でも満足度が高いと好評の研修ではありますが、機械や図面のそれとは違い、研修したことを実践するには職場の協力が不可欠です。せっかくいい研修を受講したのに職場で生かせていないのが現状のようでした。そこで今回、みんなで考えるきっかけを作り、実践していただくため、研修3ヶ月後に発表会を実施する運びとなりました。

発表に参加したのは受講生9名で持ち時間10分程度。発表内容はすべて自分達の職場での身近な問題を取り上げ、「課題の選定→原因の追究→対策の検討→対策の実施→効果の確認→実施後の感想」の手順で研修の中で習得したノウハウを生かした発表でした。

審査員は当工業会の長澤会長をはじめ会員企業の経営者と発表者の相互審査にて厳正に行われました。発表者の皆さんとの共通の悩みは、最初のうちは職場のみなさんの協力がなかなか得られず、時間ばかりが過ぎたことのようでした。

しかしそのことを乗り越えてからは目覚ましい成果があがつた職場が大半だったようです。

発表者、審査員等全員が初めての経験で、すべてスムーズとはいきませんでしたが、各社の発表のほとんどがほかの職場にも生かせるものであったと思われます。

現場で作業をしている方たちの多くは他社の現状や悩みを知ることはないと思います。

その現状や悩みを知ることだけではなく、改善の取り組みも勉強できるこの研修はとても有意義だと感じ、今後も続けていければと思いました。

また、当工業会で行ってきた研修会は経営者向け、作業者向けなど各部門別がほとんどでしたが、この発表会はその垣根を越えて発表や審査を行う研修となっていることが今後の工業会や会員企業にもとても有意義だと感じました。

終了後は近くの居酒屋さんで会長を囲み職場での苦労や成果の話題で大いに盛り上がりました。

成績優秀者は下記の方々でした。

- 最優秀賞 木村 和広 (株)三松
優秀賞 斎藤 岳洋 八祥産業(株)
敢闘賞 井口 義久 (株)三松



発表会に参加したみなさん

パワーアップ研修会最優秀者の感想〈木村 和広様 (株)三松〉

今回のパワーアップ研修会では、初日、2日目と学ぶ事や再認識させてもらえる事の多い研修だったと思います。ですが、今回研修会で1番驚いたのは3日目の研修発表会で自分が優勝したことです。優勝するとは思ってもいませんでしたので大変嬉しく、光栄に思います。これからも研修会での事を生かし、より一層自分を成長させ会社の発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。



長澤会長と木村さん

<記事担当:安永 修>
(株)ヤスナガ

毎年10月1日に行われる宗像大社秋季大祭 みあれ祭をご存知ですか？

この「みあれ祭」は宗像大社（田島の辺津宮）で宗像三女神が一同に会して秋祭大祭を行うものです。

前日、60km沖の沖の島にある沖津宮にお祀りしている（長女）田心姫神（たごりひめのかみ）様を11km沖の筑前大島の中津宮にお祀りしている（次女）湍津姫神（たぎつひめのかみ）様のもとにお連れします。当日、朝9時30分に筑前大島港を出港し、2隻の御座船が約200隻のお供の船団と共に、神湊辺津宮にお祀られている（三女）市杵島姫神（いちきしまひめのかみ）様がお迎えに来る神湊（こうのみなと）をめざして約15キロのコースを1時間かけて海上パレードを行い、豊漁や海の安全を祈願する祭りです。

「みあれ」とは新しい靈力をいただくという意味だそうです。

我が社では5年前からこの日を社員研修の日として仲良くしている鐘崎の漁師さんの船に乗せていただいています。

漁船には女性は乗ってはいけません。理由は女神様がやきもちをやくからだと漁師さんから聞きました。ですから漁師さんの奥さんや娘さんがうらやましがるような体験をさせてもらっています。

大船団は御座船を囲むように守りながら、神湊を目指します。その船の並んだ姿のすごさはなかなか写真では伝え切れません。

より御座船に近づこうと船があたりそうなほどギリギリをいくこの迫力満点の世界。互いの作った引き波に船を持ってかれないように距離を保ちながら御座船に近づく操船技術はすばらしく、皆ゆれによろめきながら歓声（奇声？）をあげてはしゃいでおります。



御座船（中央の2隻）

神湊沖までお送りし、御座船の周りを祈願しながら回ります。帰りは鐘崎漁港まで一直線のスピードレース！これもまた楽しい。

約750年前から続くこの伝統行事、昔の船の性能ではとても大変な神事だったと思われますが代々その伝統を守ってきた皆様に継続することの力を学ぶ次第です。

<記事担当：植木 剛彦 >
(株)ナダヨシ

鉄人倶楽部 Vol. 28 封印された<悪魔の左足>

～日本代表・本田圭佑が見つめる4年後～



2010年6月24日、W杯対デンマーク戦にて(毎日.jpより)

右足で放ったシュートが大きくゴールポストを外れた。本田の顔が一瞬、歪んだ。「悪魔の左足」と世界が称賛した南アW杯でのフリーキック。あれ以来、彼の左足とゴール間のシュートコースは常に相手DFによって寸断されている。こうした中で見せた右足シュート。そこには、新たな一步を踏み出した本田の姿があった…。

W杯以後の新生日本代表。残念ながら、ザックJAPANの姿こそ見られなかつたが、香川や森本等のNEWヒーローが活躍し、見事な連勝スタートとなつた。本田はトップ下・左サイド・攻撃的ボランチ等々、日本人離れしたフィジカル面の強さを何度も見せながら、数パターンの形を堅実にこなした。背番号10を熱望する彼の姿は、名実共に、日本のエースとしての風格

すら漂つていた。しかし、彼の表情は決して満足気ではなかつた。本田はパラグアイ戦後、次の様に語つてゐる。

「これまでの試合で、こんなに自分が警戒されたことはなかつた。スピード・フィジカル面は勿論、特に右足の精度UP。これら全てを進化させなくてはいけない。」

なにしろ、向上心の塊である。W杯でも、本田は、岡田前監督が公言していたベスト4どころか、優勝を目指すと語つ

いた。決勝リーグ進出が決まった時も、「僕にとっての目標はあくまで優勝なので、少しも嬉しくない」と言い切つた。子供の時分から、本田の目標だった兄の弘幸さん。

「圭佑はレアルの10番になると子供の頃から言つていました。でも、それは夢ではない。目標なんです。圭佑は常にそこから逆算しながら、大真面目に生きているのです。」と語る。

新生日本の緒戦、パラグアイ戦で見せた本田の右足シュートは、彼の4年後を予感させる姿ではなかつたか。試合の中で、香川や森本にスルーパスを出し続けていた本田の姿を、「悪い時の中田みたいだ。」と、酷評した評論家もいた。しかし、自分流を貫き通す男には、そんな雑音等、聞こえないだろう。実際、試合後、本田は「色々な

ことが試せて良かった。」とも語つた。右足のシュートは本田自身の挑戦の始まりである。敢えて<悪魔の左足>を封印し、相手DFをかわして振りぬいた右足の一撃。「敵DFの脳裏に、僕の右足を意識させるだけでも、一瞬の隙が生まれる」と。

4年後のブラジルW杯。誰もが憧れるサッカー王国のピッチに彼はきっと立つてゐるだろう。その瞬間を見据えて本田の眼は今、ぎらぎらと、進化し続ける自らの姿を見つめている。



デンマークに勝利し、サポーターに挨拶する本田(共同通信・スポニチ)

プロフィール

本田 圭佑

1986年6月13日生まれ 大阪府出身

182cm 74Kg

中学時代はガンバ大阪のジュニアユース所属。

星稜高では3年連続で全国高校選手権出場。

卒業後名古屋グランパスに入団。

初年度から試合に出場、チームの主力に成長。

08年1月、オランダリーグのVVVフェンロへ移籍。

念願の海外挑戦を果たすも、チームは2部に降格。

しかし、チームを牽引して36試合16ゴール。年間MVPを獲得。

現在はロシアの強豪CSKAモスクワに所属。

欧州チャンピオンズリーグでは、決勝トーナメント・1回戦で強烈なFKをたたき込み、チームのベスト8進出の立役者となった。

W杯・南アフリカ大会で…、「HONDA」の名前を世界にとどろかせたことは御存知の通り。

<取材 : 大和 啓介>
三和金属 (株)

お客様の立場で物事を考え、親身になつたリスクソリューション
“For You の精神”で安心をご提供いたします。

AT 株式会社リスクテック

810-0045 福岡市中央区草香江1丁目2-19
TEL 092-737-6881 FAX 092-737-6882
HP <http://www.risktec.jp>

お気軽にご相談ください

各種損害保険

各種生命保険

- ◆自動車保険
- ◆火災保険(企業向・個人向)
- ◆任意労災保険
- ◆第三者賠償保険(請負・PL)
- ◆経営者保障

企業も個人も保険は信頼のリスクテックで !!

* * 編集後記 * *

近頃『準備』という言葉をよく耳にするとともに、その意味をよく考える。

当たり前の言葉であるが、広辞苑を引くと「ある事をするのに必要な物や態勢を前もってととのえること」と書いてある。

今年開催のW杯南アフリカ大会、想定外に活躍した日本代表チームの新司令塔、本田圭佑選手の試合後のインタビュー「結果は当然、なぜなら我々はその“準備”をしてきたのだから」と、また先日お会いした、東北地方のある電機会社会長のお話で「中小企業には、大企業との取引だけに依存するのではなく、時代の動向を敏感に感じ取りながら、将来への“準備”を怠らないしたたかさと柔軟さが必要である」との言葉が印象深かった。

本年6月、実父である弊社会長が他界した。

残務・財産・自社株・退職金・保険等各整理、相続・贈与処理で大変であった(現在進行形)が、何とか無事納まってきた。7年前、事業承継に関する民間保険他を活用しての対策案を父に提案した。すごい剣幕で怒られた。(俺を殺す気かと….)根気強く説明した。理解を求めた。自分の為ではなく、社員及びその家族を守る為の、会社存続の為であると。



鶴元 清一郎
(有)鶴元製作所

今思えば私なりの『準備』であった。こんなに早い執行は想定外であったが。

早速ではあるが、落ち着いたら次の世代への『準備』にとりかかりたいと考える。

会員の皆様、それぞれの立場で今一度、将来の様々な事象に備えた『準備』を考えていただければ幸いです。

ホームページ開設中

ホームページアドレス <http://www.fukuoka-sma.gr.jp>

ホームページ・メールアドレスを変更された会員の方は、事務局までご連絡下さい

シートメタル 九州 第28号
(九州シートメタル工業会会報)

発行日 平成22年9月25日
発 行 九州シートメタル工業会
事務局 〒812-0893 福岡市博多区那珂6-25-15
(株)アマダ福岡営業所 TEL092-573-3655
TEL800-0242 北九州市小倉南区津田1-1-3
(株)アマダ北九州営業所 TEL093-475-0220

今回の表紙



長崎市
端島(通称「軍艦島」)

長崎市の沖に浮かぶ端島(通称「軍艦島」)。炭坑で最も栄えた頃には5300人以上の人々が住んでいたそうです。炭坑閉山後は無人島となり、島への立ち入りは長く禁止されていましたが、去年から観光客も上陸できるようになりました。私が訪れた時は悪天候で周囲のみとなりましたが、その存在感に圧倒されました。またいつか上陸再チャレンジしたいと思ってます。

表紙担当: 長澤 敏光 (ナサ工業(株))
撮影: 舛本 健太 (ナサ工業(株))